

## 徳島県金融経済概況

### 1. 概況

- 徳島県内の景気は、回復を続けている。

すなわち、公共投資は緩やかに増加している。設備投資は高水準となっている。個人消費は着実に持ち直している。住宅投資は、貸家を中心に減少してきたが、このところ下げ止まっている。こうした中、企業の生産動向は、振れを伴いつつも、緩やかに増加している。雇用・所得情勢をみると、労働需給は引き締まっており、雇用者所得も基調的には緩やかに持ち直している。

### 2. 実体経済

- 最終需要の動向をみると、以下のとおり。

設備投資は、高水準となっている。

3月短観における設備投資（全産業）をみると、2018年度は、前年を上回る見込みとなっている。2019年度は、現時点では、前年を下回る計画となっている。

個人消費は、着実に持ち直している。

大型小売店の売上は、着実に持ち直している。

乗用車の新車登録台数は、持ち直している。

家電販売は、底堅く推移している。

住宅投資は、貸家を中心に減少してきたが、このところ下げ止まっている。

公共投資は、緩やかに増加している。

- 企業の生産動向は、振れを伴いつつも、緩やかに増加している。

化学は、振れを伴いつつも、緩やかに増加している。電気機械、はん用・生産用機械は、高水準となっている。金属製品は、高めの水準となっている。食料品、パルプ・紙・紙加工品は、横ばい圏内の動きとなっている。輸送機械は、弱めの動きとなっている。

- 雇用・所得情勢をみると、労働需給は引き締まっており、雇用者所得も基調的には緩やかに持ち直している。

- 消費者物価（除く生鮮食品）の前年比は、1%程度となっている。

### 3. 金融

- 民間金融機関の貸出（3月）は、前月に比べ前年比プラス幅が縮小した。

貸出約定平均金利は、前月比低下した（県内国内銀行ベース、3月末1.322%〈前月末1.336%〉）。

- 預金（3月）は、概ね前年並みとなっている。

- 倒産および信用保証協会の代位弁済については、落ち着いた状況が続いている。

以 上